

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番号 ばんごう
「あ、ゆきや」誰かが言えどたと 「あ、ゆきや」だれかがいえどたと	冬休み学校ないけどだらけるな ふゆやすみがっこうないけどだらけるな	雪の日に受かったよといいきみ笑う ゆきのひにうかったよといいきみわらう	朝寒く布団出れずに二度寝して あささむくふとんでれずににどねして	ふとみるとおちばひらひらせつないな ふと見ると落ち葉ひらひら切ないな	秋休み何でないといいながら あきやすみなんでないのといいいながら	秋の色赤やオレンジ紅葉が あきのいろあかやおれんじこうようが	十五夜の月眺めながら団子食べ じゅうごやのつきながめながらだんごたべ	くもひとつ街のはずれに透きとおる くもひとつまちのはずれにすきとおる	山の上に秋風誘う月浮かぶ やまのうえにあきかせさそうつきうかぶ	上の句 かみく
玄関向かう三人姉妹 げんかんむかうさんにんしまい	毎日毎日早寝早起き まいにちまいにちはやねはやおき	流れる涙上がる口角 ながれるなみだあがるくちかど	次にと起きたら遅刻寸前 つぎにおきたらちこくすんぜん	それ見て思う弱虫な私 それみておもうよわむしなわたし	話しながらも終わる毎年 はなしながらもおわるまいとし	美しく綺麗に色づく季節 うつくしくきれいにいろづくきせつ	やっぱり私は花より団子 やっぱりわたしははなよりだんご	たそがれのぞくせいしゅんのまど たそがれのぞくせいしゅんのまど	光の末に紅葉なりけり ひかりのすえにもみじなりけり	下の句 しもく
ざいそんぎくら	ジュン	ゆら	亜紗菜	にやこた	みきやん	ななりん	満月	隣の庭のポチ	風織紫苑	作者 さくしゃ